

開 議

○蒲生光男委員長 おはようございます。

これより15日に引き続き、予算特別委員会を開きます。

本日の会議に欠席の通告委員は、4番、大道寺 信委員の1名であります。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

平成22年度長井市各会計予算案に関する総括質疑

○蒲生光男委員長 それでは、15日に引き続き、予算総括質疑を続行いたします。

順次ご指名いたします。

渋谷佐輔委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 順位4番、議席番号9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 おはようございます。

私は、通告しております3点について市長並びに関係担当者にご質問申し上げます。

まず、先日、蒲生吉夫議員が上郷地区にはバスも通っていない、路線にかすりもしないじゃないかと、励ますというか微妙なお言葉をいただきました。確かにバスも通っておりませんが、そこに住んでいる住民はたくましく、元気を求めて一生懸命生活をしているということを、まずご報告申し上げたいと思います。

まず最初に、市長にお伺いしますが、市民一

人1スポーツの推進ということについて市長は施政方針に掲げられております。私も大事なことだと思います。その辺について市長の思い入れ、やはり施政方針の文言につけ加える思い入れをひとつお聞かせいただきたい。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

市民一スポーツということは、これからの長井市の地域を再生するという意味からは大きな要素の一つだというふうに思っております。特に生きがいとしてのスポーツを楽しむということ、また、健康を維持するということの大きく2つでしょうか、そういった意味で必ずしも現在はやりたいスポーツが手軽にできるような状況にはなっていないんじゃないかというようなことから、22年度から生涯スポーツ課を新たに設置しながら総合型地域スポーツクラブをしっかりと構築してまいりたいと。現在、西根地区の方にときめきスポーツクラブあるわけですが、それを拡大、発展させるということから地域再生を始めてまいりたいと、そのように思っております。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 私も、スポーツ振興というか、普及推進ということについては非常に思い入れがございます。いわゆるスポーツというのは、どちらかといえば競技力向上とか、大会に参加して優秀な成績をおさめようとか、もうそういう部分の目的、意義というものがあろうかと思いますが、もう一つ、私は思うんですが、先ほど市長が言ったように健康づくり、あとと思うのは仲間づくり、コミュニケーションを図るということとか、そういう心の醸成というか、社会教育の一環かなという部分もあろうかと思われま。

そういう意味で、そのための環境づくり、これは行政の役割ではないのかなと思っております。そういう意味で、市民一人1スポーツのね

らいは、原点はそこら辺にもあるんでないかなと思われま。

そういう意味で、さきのオリンピックを見ての感想ですが、施政方針の中にもバンクーバーのことを市長書かれておりますが、私があそこで思ったのは、やはり確かにメダルを獲得した加藤条治選手始め、さわやかな晴れやかなあの表情、何とも言えない感動だったんですね。ただ、逆に、スノボの國母選手ですか、あれはとって私にはスポーツ選手として寂しいなという思いがあったんです。というのは、本当に日本人の思いですが、日本人の心のどこかには昔からスポーツと言わなくても武道とか、そういう精神修行のためのスポーツというか、形があったわけです。そういう意味で、日本人にはそういうDNAというか、血が流れているんだと思っておったんですが、何でもありみたいな、飛行場に行ったときのあの格好、スタイル、それから記者会見での、「ちっ」とかというあのしぐさ、ああいうものを見ると、これ日本人を代表する選手かなと本当に寂しい思いがあったわけです。

いつかの議会でも私申し上げましたが、日本人には儒教の精神というか、教えというのがあるわけで、仁義礼智信、忠孝悌敬という本当に精神に宿るものがあるわけですが、そういう意味でもスポーツというのは大事な生涯教育じゃないかなと思っております。仁というのは、思いやり、義というのは、正しい筋道、礼というのは、礼儀作法、智というのは正しい判断力、信というのは信頼、誠実と、うそを言わないと、忠は陰ひなたのない心、素直など、孝というのは親に対する真心、それから悌というのは目上の上を敬う、敬というのは相手の人格を尊重する、こういう儒教の教えがあるわけで、私は時々これ電話のところに張って見てるんですが、なかなか思うようには動かないわけですが、そういう精神修養の醸成の場がスポーツの環境で

ないかと思っております。市長、その辺ひとつご見解を。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渋谷委員がおっしゃいますように、國母選手ですか、テレビの報道なんか見えますと、やっぱりああいった自己表現が正しいと思っている未熟さというのはちょっと感じましたね。そういう意味では、まだまだ若い、未熟だなど。多分サッカーなんか、かつてJリーグが発足する前はそういう傾向があったんですけども、Jリーグできて、外からいっぱい見られてるんだという意識からサッカー選手はそういったことがなくなったなというふうに見えます。そういった意味では、渋谷委員がおっしゃった9つの儒教の教えといいますか、こういったものは我々日本人の精神的な柱の一つだというふうに思ってますんで、そういったものもスポーツの中で備われば大変ありがたい、そうあるべきだろうというふうに思います。

あと、総合型地域スポーツクラブというのは、あんまり表現はよくないかもしれない、ピラミッドになってまして、一番底辺の部分はいわゆるスポーツを楽しむという人たち、あと頂点はプロを目指すとか、そういったところが地域からも出せるような、そういったことをやっていかなきゃいけないんじゃないかと。そのための指導者とか、あるいはコーチとか、そういった方々も組織の中できちっと確保して、それなりの手だてもできるような、そういった組織をつくっていくということが必要だと。そして渋谷委員がおっしゃったようなスポーツをたしなむ基本というものも、そういった中で培われるべきだというふうに思います。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 そういう意味で、新しく生涯スポーツ課新設というねらい、方向性ができてきたなと思っております。地域総合型スポーツクラブ、西根地区にも発足しているわけで

すが、先日の西根地区の分館対抗バレーボール大会あったんですが、スポーツクラブの事務局を担当してるというか、スタッフでしょうか、朝早くから来て会場の設営を手伝ったり、あるいはカメラ持って試合の状況を写したり、あるいは試合の結果をいろいろ整理したり、そういう面で手伝うというサポーターというか、スタッフとして頑張ってた。

これ本当に地元だからしてくれるのかなという、愛着心というか、それは本当に大したものだな、頑張ってるなということをかいま見させてもらったんですが、長井市全域を網羅した地域総合型クラブとなれば、今度、教育委員会というか、所管の部門の仕事ってまたふえてくるんでないかなと思われま。そういう意味で、今回企画をなさってる教育長にお伺いしますが、いろんなサポートというか、行政としての支援体制があると思うんですが、その辺の取り組み方向、方針、指針についてひとつ教育長からお伺いしたいと思います。

○蒲生光男委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 西根ときめきスポーツクラブは会長さんを中心に大変頑張っていたいて、何かときめきクラブスポーツ通信というか、こういうものも発行していただいていると。先週の日曜日ですね、インディアカ大会があったんですが、9チームの中で3チームか4チーム西根のチームでした。そういうふうに非常にスポーツに対して取り組みが充実している地域だなというふうに思いますが、やっぱり資金面で大変苦労なさっておって、道具なんかも買えないとか、または会員の拡大、普及に若干問題があるというようなお話も聞いていますので、資金面のサポートというのはなかなかできないわけですが、補助事業の情報提供なり、または協力体制ですね、教育委員会の方と連携をとりながらやっていく必要があるのかなと。

総合型地域スポーツクラブ、中央地区を網羅

したようなスポーツクラブができた場合には、二、三年かかると思いますけども、かえって連携、協力という面では充実してくるのかなと。事業なんかも拡大、普及にはかえってその方が都合がいいのかなというふうに思っています。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 そういうスポーツクラブの育成ということについては、本当に当局からも一層のご指導、ご協力いただかなければならないと思っております。そういった意味で、やはり背景となる環境づくり、施設の整備の問題が出てくるわけですが、スポーツクラブに限らず長井市の体育振興の中で施設整備計画というものは教育長、立てておられるのでしょうか。

○蒲生光男委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 現在の第2期の生涯学習振興計画策定中ですが、その中で社会体育施設の今後の方向性にも言及されておって、プラザ運動公園については、スポーツ振興審議会等の意見を踏まえながら平成26年度までには整備をする。西根市民体育館については、ときめきスポーツクラブの拠点施設でもありますので、改修をしながら継続していくと。

ただ、平野市民体育館については、フロアの老朽化が大変激しいものですから廃止を含めて検討する方向が出されていますし、あやめ公園内の運動公園ですね、これは宮プール廃止跡地の検討と野球場、市民グラウンド、テニスコート全体を含めた抜本的な改修が必要でないかというふうな方向が出されています。

あと、市民スキー場については23年度に一本化すると。あと、そのほかに武道館ですね、これは屋根とか壁面またはフロアの改修が必要だろうと。小出プールについても補修をしながら継続するという方向性が出されていますので、教育委員会としては、それに沿って年次計画を策定しながら改修を進めていきたいというふうに思っています。

+

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 今いろんな体育施設の整備計画についてお話いただきました。その中で、宮プール跡地利用ということについて、先般も高橋孝夫委員がご指摘されました。ただ、その中で私とちょっとニュアンス違うのは、高橋委員はゲートボールやペタンクはもうどうかねというようなご感想をお持ちでしたが……。

（「違う、違うところにあるって」の声あり）

○9番 渋谷佐輔委員 ああ、そうか、場所があるってことね。その場所の確保ですが、それはそれで結構ですが、現在、クラブ、愛好者の活動状況をちょっと調査したところ、長井の施設じゃなくて隣の白鷹町、飯豊町の施設を冬期間利用しているというケースが非常に多かったんです。

例えばつむぎパークなんかは、ゲートボールで4チーム、それからテニスクラブで2チーム、それからグラウンドゴルフでも過去利用したと。それから中学校の部活でも利用しているというような状況でした。これは白鷹町教育委員会からお聞きしました。それから飯豊少年自然の家、これにもペタンクが週2回、ゲートボールが週2回とか、もう本当に冬期間でもそういう屋内運動施設というものを非常に利用しているという実態でした。

そんなこんなことから、やはりこの際、屋内運動場、これをどこかに整備してほしいというのが愛好者、スポーツ関係者からの話でした。

その辺について、教育長、ひとつお考えを。

○蒲生光男委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 屋内運動場についての要望というのは結構あるわけですが、ペタンクとかゲートボールに限らず、さっきもあったように中学校の野球のピッチング練習とか、そういうものもできるということで検討する必要はあるんだと思いますけども、今現在の財政状況の中ではすぐ建設できるとか、何かそれに類する

ような施設をつくるということはちょっと大変かなというふうに思っています。ただ、学校の耐震化、大規模改修が終わったり、プラザの運動公園の整備が終わった時点で、そういう要望があるわけですので、検討する価値があるなというふうには思います。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 教育長からもそういうふうに計画の検討の余地ということをお聞きすれば、順次計画を立てて期待にこたえられるようにひとつお願いしたいと思います。

先日も長井市体育協会長の吉田さんからもいろいろお話をお伺いしまして、「協会としても会員のニーズというものを十分検討しながら取り組んでいきたい」ということでしたので、教育長なり、市長におかれましても、そういうスポーツ振興の立場から環境整備についてはひとつ頑張っていたいただきたいと思います。

この項で最後になるわけですが、スポーツ振興については、やはりやる人、参加する人、スポーツする人、これも結構ですが、関心を持って見る人もいなければ底辺拡大にならないわけですし、例えば先般でしたか、この議会で「県縦断駅伝の長井・西置賜チームの成績があんまり芳しくない。何とかこれを打破しなきゃならない」というご答弁がございました。その辺について、見る人の関心度を高める市民一人1スポーツの推進ということから見れば何らかのアクションがあるのかなと思ひまして、もし教育長、市長、どちらでも結構ですから縦断駅伝の強化策についてひとつご所見を。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 縦断駅伝の強化策ということですが、置賜でも特に南陽、高畠あたりが力を入れてると。あと上山市あたりも力を入れて、2通りありまして、小学生あたりから、小学、中学、そういったところで指導者をきちっと確保して、まず底上げをしていくということが1つ、

それから、ちょっとそれは時間かかりますので、それと同時に指導者の確保、また選手の確保と。選手については西置賜行政組合あるいは西置賜の1市3町のそれぞれの役場、役所関係とか外郭団体等々で、公正なこれは試験を受けなきゃいけないけども、そういった優秀な技能を持った人に受けていただくということで、これは22年度の4月1日の西置賜行政組合の職員になる採用予定の職員が実は箱根駅伝で今回出場した選手が頑張りました、採用の予定でございます。

また、企業でも同じく箱根駅伝を走った選手を市内の企業が採用してくださるということ等々、それ以外にもさまざまな形で、地元はもちろんですけども、県外からもそういった気持ちのある選手も長井に、西置賜に呼び寄せたい。そんなことをしながら強化を図って行って、駅伝の市民の関心を高めていくようにしてまいりますというふうに思っております。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 今、市長から採用予定というか、4月1日でないとは発表できないようなニュアンスでしたが、具体的に何名ぐらい、行政組合で何名とか、企業で何名とかでも具体的な数字がございましたら。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 西置賜管内ということでいいますと、役所関係で正職員で2名でしょうか、それから定時補助職員みたいな格好で1名、それと企業の方で2名ですね、あと昨年1名採っていただいておりますので、去年、ことしで大体5人ぐらいでしょうか、少し強化できると。あと、市の職員として採用する予定の者については、選手というよりも将来そういった関係の勉強をしてきて、みずからも箱根駅伝を目指したということで、そういった職員などが将来コーチとか指導者になるんじゃないかなというふうに思っているところでございます。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 かなりの人数がランナーとして、これは長井・西置賜チームのメンバーになるんでないかと非常に心強い感じを持ったわけでございます、頑張れよと、よかったなと思われる結果が残せるように我々も応援したいなど。この強化策は、選択は間違っていなかったと言われるような感動的な長井・西置賜チームを応援したいなど思っております。

次に、あやめ公園の関係ですが、ことしあやめ公園開園100周年ということで実行委員会も立ち上げられまして、盛んに検討されていると。先日も実行委員長の手塚君とお話ししまして、「どんなことを検討してるのか、どの程度か」なんて言ったら、「いや、こんなことをやっているんだ」なんて言って、こんなあやめ100イベントなんていうことでイベント関係、出店関係、飲食関係、遊び関係、ショー関係、その他囲碁、将棋大会の文化事業、あとはスポーツ事業とかいろんなことでかかわっておられまして、文化事業とかスポーツ事業は抜きまして、「実行委員会として検討してるのはこんなことよ」なんて、本当にすばらしいメニューを見せてもらいました。

本当に彼の頑張り、「何か問題ないか」なんて言ったら、「いや、このイベントを何としても成功させたい、それだけで頭いっぱいだ」なんていうことで私聞いてましたが、そんなこんなで実行委員の若い衆も頑張っておられると。市長もこの企画には相当熱を入れておられるようですが、1つは、やっぱりこの公園の性格があやめの花だけに絞られてる。ほかのあやめ公園は、どちらかといえば毛越寺のような庭園の一角を飾っていると。それから会津の伊佐須美神社なんかも神社の境内の中の一角に彩りを添えているというパターンですが、本当にあやめの場合は特化しているということですが、今後のあり方というのは難しいなと私は思うん

+

ですが、市長は、この辺のスタイル、これからあやめ公園のスタイルをどうしようとなさっているのかなということをちょっとお聞きしたいと思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 あやめ公園については、平成8年、9年ごろでしょうか、以前大規模改修したと。しかし、それは途中で1次工事で、2次工事はしなかったというふうに聞いております。これからどういったあやめ公園にしていくかということについては、やはり相当市民の皆様も巻き込んだ議論をして、どういった公園にするかということを決定しなきゃいけないというふうに思っております。

幸いにも国の方で平成22年度から総合交付金事業というようなことで、仮称でございますけれども、社会資本整備総合交付金という、いわゆる先ほどのスポーツ施設なんかもそうなんですが、例えば都市計画区域内ですといろいろ整備手法が、都市公園という位置づけの観光あるいはスポーツ施設というような位置づけの都市公園とか、そういったことでいろいろできる要素があるなというふうに思っておりますので、現実的にこれからあやめ公園をどうするかということ、私の考えというよりは市民の各層から意見をいただいて、しかし、そんなに5年後、10年後ということじゃなくて、やっぱりここ3年ぐらいでどうするかということを決めていかないと、こういった事業も該当できなくなるんじゃないかなというふうに思ってます。

私個人としては、「水と緑と花のながい」の中で水がどうも生かされてないなど、そういう思いがありますし、あとは、あやめ会館始めゲートもそうですけども、二昔前ぐらいのもので、今の観光客が求めるようなあやめ公園の仕様には全くなってないということから、それらも含めて総合的にやはり各層の意見を聞いて検討したいというふうに思ってます。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 先日も、9月の一般質問だかでもいろいろな質問させてもらいまして、あのときはアバウトな質問で終わったわけですが、ちょっと具体的な部分に触れてみたいと思いますので、商工観光課長からひとつご答弁をいただきたいと。

1つは、花が咲いていないときの入園料差別ということについて、状況に定義があるのか、だれがこの値段設定をするのかということについてありましたら、この辺について商工観光課長、ひとつ。

○蒲生光男委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答え申し上げます。

昨年度から基本的には二分咲き程度の段階で300円というふうなことにさせていただいております。決定につきましては、前段の徴収時期につきましては、観光協会長、それから市長または副市長が公園の方に出向いていただきまして、状況を見て判断をさせていただくというふうな状況になってございます。

終期といいますか、終わりのタイミングの時期につきましては、私どもと観光協会の方で終盤の特別料金といいますか、そういったふうなものの設定をしているというふうなことでございます。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 それに関連して、ゆり園との共通入園券が去年あったわけですが、ことはどういう対応をなされるつもりですか。

○蒲生光男委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答え申し上げます。

あやめとゆり園の共通入園券のことかなと思いますが、これにつきましても22年度も実施をしたいというふうに考えてございます。料金につきましては、これから細部を調整いたしますが、基本的には21年度の金額で考えていきたいというふうに思っております。

- 蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。
- 9番 渋谷佐輔委員 去年は700円だったと思いますが、ことしは料金変わっても中身は変わらないということですか。
- 蒲生光男委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。
- 齋藤理喜夫商工観光課長 お答え申し上げます。
今年度のゆり園とあやめ公園の共通入園券につきましては、大人の個人で1,000円でございます。今年度あやめ公園を500円というふうなことで予定をしておるわけですが、ゆり園につきましては600円で、1,100円でございます。これを共通券といたしましては昨年と同様というふうなことで考えております。
- 蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。
- 9番 渋谷佐輔委員 あやめ公園に関しては、山鉄の方でもかなり去年も力入れておったというか、タイアップしておったということですが、山鉄のあやめ公園入園プレミアム乗車券あるいは山形鉄道のパス入園券、これについてどのように対応されてますか。
- 蒲生光男委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。
- 齋藤理喜夫商工観光課長 お答え申し上げます。
山形鉄道のあやめ公園駅の方から入園される場合、山形鉄道を利用してあやめ公園に入園されるという皆様方につきましては、団体料金を適用させていただいて入園をいただいております。
- 蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。
- 9番 渋谷佐輔委員 わかりました。
次に、接遇の問題ですが、物産館の販売対応について、どうも元気がないと、セールス意欲に欠けてるんじゃないかと、あるいは販売のサービス精神というか、心からいらっしやいませというイメージが見えないという声があったんですが、商工観光課長として、この指導の方はどうなってますか。
- 蒲生光男委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。
- 齋藤理喜夫商工観光課長 お答え申し上げます。

発券場あるいは物産館等の職員の採用につきましては、観光協会の方でもかなり苦勞していく状況が見られます。今までお世話になった方を通して応募していただくと、募集をするというふうなことがどうも実際上の状況かなというふうな感じがいたします。その中でお客様の入りも少ないというふうなこともあって、必ずしも元気がないような状況になる可能性が高いというふうなことでは感じてございます。

私といたしましては、一番最初の顔合わせ会といえますか、の際にきちんとした対応をとっていただきたいというふうなこと、それから公園の方に行きました際に、あちらこちらに顔を出しながら、よろしくお願ひしますというふうな形をとらせていただいているというふうな状況でございます。

ただ、私が聞いている中では、昨年初めて物産館の方に応募いただいた方がおられたそうがあります。この方は、暑いときなんかはお絞りをお客様の方に使っていただくというふうなことなどもやったそうであります。そういったふうなことがそれまでの職員の方にいい影響を与えたというふうなお話を聞いてございます。

それから、お客様に対する商品の説明といったふうなことをやりながら、商品的には必ずしも多くはないかと思うんですが、ある商品が今年の売り上げから飛び抜けて実績を上げたというふうなお話を聞いてございます。基本的には厳しい採用状況といえますか、応募状況の中ではありますが、その中でお互いに気持ちをそろえ合って、何かできるだろうというふうな気持ちを出していただければいい形になるのでないかというふうに思っております。新年度につきましては、こういったふうな職員の力をいい方向に持っていくような形で指導といえますか、あるいは私どもの方の対応もしていかないとはいえないだろうなというふうに感じているところでございます。

+

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 やはり雰囲気というか、お祭りであれば大事なのかなと思います。やっぱり受付あるいは接客と、多分ふなれな部分があらわれるという場合もあるかと思いますが、やはりポイントの仕事もお祭りの引き立て役であったり、入園時の受け付け態度や物産館の接客などが適切な指導が必要じゃないかというのが市民の声でございますので、ひとつ商工観光課長、その辺も気をつけて目配り、気配りしていただきながら頑張っていたきたい。

イベント関係については、ことしは100周年ということで、先ほどお話ししたように幾つかの多くのイベントが企画されておりますので、それは実行委員会の方へまずお任せするとしまして、施設関係ですが、委員長からも出たんですが、1カ所出入り口ふえるんだねと、そうすれば4カ所になるんだね、本当に4カ所必要なのかなというちょっと話も出ました。

4カ所にするとスタッフも必要だし、いかなものかなというのが単純な発想だったんですが、例えば去年寒河江のフラワーフェスティバルちょっと見に行っただんですが、あそこには受付なんてなくて、高校生か中学生のアルバイトが胸にこんな白い払箱下げて、「駐車場の協力お願いします」なんて箱ぶら下げて立っていたんですが、「幾らですか」と言ったら、「100円で結構です」と。100円ぽんと入れて駐車場にとめて中へ入ったら、今度また白い箱を持ったアルバイトみたいなのが「協力お願いします」って。「何ですか」と言ったら、「ちょっと公園管理の方、協力お願いします」と。これも100円ぐらいぽんと入れて、「ごゆっくりどうぞ」なんて言われて見てきたんですが、やっぱりそういうスタッフの確保の問題もあると思いますが、商工観光課長、これ4カ所になることの意味というか、ちょっとお聞かせいただければ。

○蒲生光男委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 4カ所というのは、今回整備をしております旧中央口の部分も含めてというふうなことだと思います。今のところでございますが、4カ所、旧中央口をすべての日にち、それからすべての時間でオープンをさせるというふうな対応はスタッフの件費等から考えまして不可能でございます。それからスタッフの配置、それから入園者に対するトイレ等の便宜等を考えますと、今の3つの入り口を基本とするというふうな考え方に立たざるを得ないだろうというふうに思っております。

それからもう一つは、改めてご理解をいただきたいのは、旧中央口、この部分につきましては市民の皆様方が特にあやめ公園の記憶と申しますか、重要なポイントの部分としての思い出の部分としての中央口を再現をするというふうなことが、まず今のところ基本というふうなことを考えてございます。ですから旧中央口の部分につきましては、資金的な部分も考慮しながら、時間あるいは曜日等を設定をしながら市民の皆様方を中心として入っていただくというふうな対応に考えていかざるを得ないだろうというふうに思っております。ご理解をいただきたいのは、あやめ公園の記憶の中での旧中央口のイメージをもう一度市民の皆様方に味わっていただきたいということが基本であるというふうなことをご理解をいただきたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 わかりました。

もう一つは、あやめ公園はあやめがメインなんだけども、周りの松の木とか桜とか雰囲気がいいという評判もあるわけですし、松や桜やもみじ、そういうことの管理も大変だと思うんです。病虫害防除とか、いろいろしなければならぬと思います。

そうなってくると問題になってくるのは、ス

スタッフ、予算となるわけですが、予算は行政の方で考えるとして、スタッフの確保の問題ですが、特に言われたのは、あやめを立派に、育成部分もあるわけですが、いい花を見てもらおうと思っても、祭り期間中にさくらまつりとか黒獅子まつりとか、さかのぼれば、つつじまつりまでいろいろ駆り出されると。そうすると、あやめ本体の自分たちが描くあやめ、花、公園、これが行き届かない点がたくさん出てくるということで、スタッフからはメンバーの確保について要望があったわけです。それについて商工観光課長、今どのように考えておられるか、ひとつ。

○蒲生光男委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答え申し上げます。

作業員自体は9名を予算上確保してございます。それから予算的には緊急雇用での採用というふうなことも考えてございます。ただ、桜、ツツジ、特に桜の時期があやめ公園にとっては極めて重要な期間になるわけなんです、この時期に桜の方に手がとられるというふうな可能性が高いというふうな状況にあります。

今回、今想定をしてございます臨時作業員を、できるだけあやめ公園の方になれた職員については公園の方に、それから臨時的な緊急雇用の部分については桜あるいはツツジというふうなものを中心にしてというふうな対応を考えていきたいというふうに思っております。ただ、桜、ツツジあるいは黒獅子にしても、ある意味では年々力を入れざるを得ないというふうな状況がございまして。予算的に限られてる範囲の中でそれぞれご協力をいただきながら、少しでもいいものを育てるための協力をいただくというふうなことにしていきたいというふうに思っております。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 スタッフの問題ですが、先般ちょっとハローワークの方へ行ったらば求

人票が出てました。公園管理作業員、臨時、日給6,700円、毎月の賃金13万4,000円から13万4,000円、時間外あり、月平均20時間等々書いてあるわけですが、「こういうふう去年あたりもらってますか」と言ったら、「いや、時間外もあるんだけど、それはもう振りかえ休日で振りかえて利用させてくださいと言われた」、あるいは「予算に上限があるのか、例えば交通整理でシルバーとか何か頼んだ場合は、そちらの方の分もこの予算の中から出てるんじゃないのかな。私たち最後の方は13万4,000円なんてもらえないときもあるよ」なんて具体的に言われたわけですが、上限が決まってる以上、シルバーの部分はこっちから出すというのは、しようがないのかなと思っておりますが、やっぱり作業員の人は、たとえ期間限定であれ何とかこの花をとるという思いが強いというふうに私は受けとめました。そういう気持ちを大事にしたいという思いから、商工観光課長、ハローワークに関してはこのような理解でいいんですか。

○蒲生光男委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答え申し上げます。

ハローワークの方に対して行っております募集の内容につきましては、そのとおりでございます。ただ、1点だけお話をさせていただきたいと思っておりますが、4月の1日から採用、働いていただくといった場合には4月の給料自体は基本的には15日分しかならないというふうな状況、逆に、4月から11月まででございますので、11月の15日から30日までの分の半月分が12月に払われるというふうな状況がございまして、ですから前後の部分につきましては、総体としては半分ぐらいの部分にならざるを得ないというふうなことでございます。

それから、20日間で13万4,000円というふうなことでございますが、基本的にはこれに4月から11月まで13万4,000円に時間外が加わった金額、給料をお支払いをしてるというふうな状

+

況でございます。全く13万4,000円も確保できないというふうな状況ではございません。ただ、基本的には日給というふうな状況にあるというふうなこと、それからもう一つは、今の長井市の臨時職員の採用の基準から申し上げまして、やはりどうしても一家の世帯主が一家を支えていくに足るだけのものをなかなか確保できないというふうな点については、ご理解をいただかなければならないかなというふうに思っております。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 この件について、市長にちょっとお願いというか、希望というか、私の思いなんです、スタッフがやっぱり大事なんですね、あやめ公園の維持管理には。それについて予算面でも心配りというか、ひとつご理解していただきたいと、お願いでございます。

続きまして、育成関係についてはそんなところで、最後に、今後のあやめ公園の方向性についてちょっと私思ったんですが、花菖蒲協会からは学術資料公園として存続の声があるというわけですが、花菖蒲協会の指定の育成補助とか、そんなことを考えられないのかなと思ったり、あともう一つは、例えば県の陸上競技場が「NDソフトスタジアム」とかネーミングつけてやっているということから見れば、あやめ公園も例えば「楽天あやめ公園」とか「パナソニックあやめ公園」とかなんとか、そんなふうな方向性も考えられないかなと思ったんですが、その辺について市長はちょっと今後の方向性で何か見出すものはないのかなと思いますので。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

花菖蒲協会の方の支援を受けるというのは、かなり難しいんじゃないかというふうに思います。協会そのものが財源がほとんどない協会だなどというふうに思ってますので、推奨とか指定は受けたとしても、補助とか、そういったもの

は余り期待できないだろうというふうに思っています。

それから、NDソフトの例えばスタジアムとか、それと同じようにあやめ公園といういわゆるスポンサーを募っての考え方ですが、そういったことももちろん検討しなきゃいけないと思いますが、やっぱり残念なのは入園者のちょっとけたが違うということですね。仮に100万人ぐらいの入園者がいらっしゃるんでしたら、ある程度強気にどうだと、「冠をつけさせてあげますよ」ということを言えるんですが、やっぱり1万、2万の市外からのお客様という状況ではちょっと難しいと。ですからそういったことも一緒に考えながら、どういうふうにして多くの皆さんにごらんいただくかと、そういった公園づくりを一緒になって考えていきたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 これは全く私の夢物語、発想でして、やっぱり楽天あやめ公園なんていうと、楽天があやめ公園持ってる、じゃあ、行ってみるかなんていうことにならないのかなと思ったりしたわけ、それは夢物語で結構だと思いますが、発想の一つとしてご理解いただければありがたいなと思ってます。

あと、3点目の長井ダム周辺環境整備と水源地域ビジョンについてですが、長井ダムが完成しました。まだ、しましたっていうか、竣工式まだ終わってないからなんですが、この時期、長井ダム完成に当たってこれから長井市のまちづくりはどうリンクさせていくかということについて市長からご見解を聞かせてください。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 長井ダムにつきましては、もう昭和58年からですか、非常に長い歳月をかけて22年度に完成、竣工するというので、そういったときの市長としていいタイミングだなというふうには思います。それは名誉なことだと思

いますが、一方で、これからどうするかということについては、かなり苦勞せざるを得ないというふうに思っています。

例えばつけかえ林道ということをお願いしています道路ですね、橋、竜神大橋とか、あるいはトンネルとか、そういったものが市で管理しなきゃいけないということは大変な重荷だろうというふうに思いますし、あとは、白川ダムとかとちょっと違うところは、全く民家が沈まなかったということで、地元のための施設整備というのはゼロだったというふうに言えますので、そういった意味では、これからどうするかについてやっぱり市民の皆さんのご協力をいただかないと、そして国の方からも今度は環境保全という立場から支援をいただかないと、長井市としては重々計画性を持っていかないとむしろ重荷になってしまう懸念があるというふうに思っております。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 長井ダム周辺環境整備、このように平成14年から、本当にこの冊子を見ますと、夢が非常に膨らむ立派なものなんですね。ところが、今日見てみますと、あれ、このメニューはどこ行ったんだ、これはどうなったんだなんていうところが結構あるわけですし、聞くところによりますと、これから「長井ダム水源地域ビジョン」というものがつくられるということでして、今、準備会が行われてるということで、企画調整課長、これを総括したものかしないのかわからないけども、これと水源地域ビジョンとの整合性というか、ひとつお聞かせ願いたいと。

○蒲生光男委員長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 お答え申し上げます。

周辺環境整備計画は、平成10年から計画の検討を進めてまいりました。以降、平成19年、長井ダムの周辺環境整備実施プログラムというものを策定しております。これはいずれも市民の

皆さんあるいは関係する機関が入りながら、調整をしながら整備をしようというようなまとめでございました。現在までは、熊野山の展望台あるいは山道、合地沢の湖面広場、濁沢の21世紀不伐の森、道照寺平スキー場、県道迂回路のポケットパークなどを整備してきております。これからの整備予定が、野川第1発電所の跡地の整地あるいはスキー場のリフトの移設、照明灯の整備などがございます。

こうした、今までは工事の跡地などの利用をどうしていくかということを検討してきました。今ご質問にありました水源地域ビジョンについては、これは国と長井ダム工事事務所が策定する計画でございます。これに長井市が協力するというようなことです。これは国の主導では進めますが、今までやってきたハードをどう生かすか、あるいは具体的には、まなび館などをどういうふうに流域の中で位置づけていくかという、実際今度市民と関係する団体がどう行動するかという行動計画になっておりますので、今までの環境整備計画を踏まえて、その上でどのように行動していくかというふうなもので、その整合はとらせていただくというふうに考えております。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 ぜひ水源地域ビジョン作成についても市民の声が、地域住民の声が反映されるようなビジョンを策定していただけるようにお願いしたい。

最後になりますが、この中で具体的なことで、ダム周辺環境整備の中で三淵山道の実現というものをいろいろ地元として要望してまいりました。この辺、まだ山道が整備されたよということは聞いておりませんし、また、三淵移転に伴って神社のほこらの近くにモニュメントをつくってあげますよという国の方からのちょっとアドバイスがあったんですが、まだでき上がっていないようですので、その辺の経過なり現

+

況なりをちょっとお聞きしたいし、最後に、発電所の名称ですが、今第1発電所、第2発電所、業界では1発、2発とかって呼んでますが、地元の方は、本当に関係する人は1発、2発と言って、ああってわかるんだけど、一般市民は「1発、2発、何」と受け取られやすいので、私としては地名を冠にした、例えば第1発電所は空沢という土地がありますから空沢発電所とか、あと第2発は合地沢にありますから合地沢発電所とか、そういうネーミングの問題、この辺について県の方へ要望していただきたいなと思います、それについて企画調整課長からひとつ。

○蒲生光男委員長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 お答え申し上げます。

まず最初の三淵の山道ですが、今お話ししました第2発電所、上流部の発電所からのアクセス道路は平成22年度中に発電所の送水管部分を渡れるようにして上げるようにというような回答を市と工事事務所の事業調整会議でいただいております。また、三淵神社の由来等、移設の経過を示すモニュメントについても平成22年度に設置するというようなことでお約束いただいているとおりでございます。

ダムの発電所の名称ですが、ご案内のとおり野川の第1発電所、下流の方は廃止されまして現在建設、間もなく完成する予定の発電所は、正式にはやはり「新野川第1発電所」というようなことで、新がついて従来の発電所とは違う位置づけの発電所になります。ただ、この発電所の名称を県企業局当局では電気事業法というような法律に基づいて既に国に届け出しているんですけど、なかなかこれを今から正式名称を地名のついた空沢、合地沢というのは難しいというふうにちょっとお聞きしているところでございます。

○蒲生光男委員長 9番、渋谷佐輔委員。

○9番 渋谷佐輔委員 わかりました。

例えば遺跡発掘のとき、高蹴遺跡というのを空沢遺跡というふうに変更した例もございますので、その辺のところ研究しながらひとつ県当局に働きかけをお願いしたいと。

時間もございませんので、これで質問を終わります。ありがとうございました。

我妻 昇委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位5番、議席番号3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 花粉が大分舞ったと思ったら雪が舞って、季節の移り変わりの真ただ中だということ、また、厳しい土地に住んでいるんだなあということを感じた次第であります。総括質疑させていただきますので、どうかご答弁のほどよろしくお願ひいたします。

一般質問では、初めての会派代表質問ということもあって、時間の配分やら、また欲張った質問になってしまって、やりとりができませんでした。ここでは特にプラザ東側の運動公園についてぜひ細かい質問、やりとりをさせていただきたいなと思っております。

まず、これ以上、公園は必要ないのではないかということでもあります。生涯プラザ東側の運動公園というのは、平成26年度までに8億5,000万円の予算で大規模な工事をするわけですが、22年度は設計委託料などで4,000万円を計上されております。どうもこの運動公園というのは、市長がよく「有利な補助メニューがあるんだ」というふうな表現されておるわけですが、補助金に飛びついたような感がどうしても否めないなというふうに思っております。一般質問では、市長、大盤振る舞いというふうなことを言っておられましたけど、私は国が大盤振る舞いを今、景気対策でしておられるのであ